

住民による地域での支え合い



生活支援コーディネーター 小池

住民同士の支え合いが求められる背景は？

- ▶ 日本は今、世界のどの国も経験したことがない**超高齢社会**を迎えている。
- ▶ 2025年以降、団塊の世代の方々が75歳以上…さらに深刻に。
- ▶ 独居老人、老老介護、近所関係の希薄化などの様々な問題が。

しかし

- ▶ 医療、介護施設、介護人材などの**地域資源が不足**
- ▶ 上手く乗り越えるためにどうするか…



2025年を目途に高齢や障がいとなっても、住み慣れた地域で暮らすことができるように、医療・介護・住まい・介護予防・生活支援が一体的に提供できる仕組み。

国の今後の支え合いのイメージ



協議体

地域で困りごとや課題を共有し合う場



生活支援コーディネーター

地域住民と共に地域資源の把握や課題解決等を進める上での調整役に

住み慣れた自宅で暮らせるための地域作り

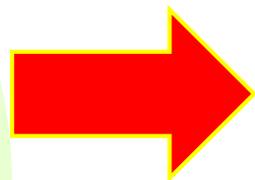
生活支援コーディネーターと協議体の活動展開



家にいることが多くて
体力が落ちたなあ



粗大ゴミが出せなくて
困ったわ



日常的な困りごとと支援

社会的交流

安否確認

家事支援

孤立防止



協議体



生活支援コーディネーター

生活支援コーディネーターと協議体の活動展開

「通いの場」の創出



介護予防で元気に！

助け合い・支え合い



買い物



窓拭き



ご飯の支度



荷物整理

厚田区の通いの場の例①



厚田婦人会(認知症予防講話) 参加者5名
場所：保健センターにて

厚田区の通いの場の例②



体操グループ 参加者5名
場所：みなくる

厚田区の通いの場の例③



虹が原昼食会 参加数12名
場所：虹が原会館

厚田区の通いの場の例④



転倒予防教室 参加数25名
場所：保健センター

厚田区の通いの場の例⑤



いきいきリハビリ望の会 参加者18名
場所：みなくる

厚田区の通いの場の例⑥



脳の健康教室 参加者9名
場所：保健センター



助け合い・支え合い



買い物



窓拭き



ご飯の支度



荷物整理

地域の支え合い = 生活支援体制整備事業



目的 住み慣れた地域で暮らし続けることの出来る社会を目指して

- ▶ 支え合いの地域づくり
- ▶ 身体も心も元気であることを目標とした「介護予防」

進め方 高齢者が地域での生活を円滑に行えるように

- ▶ 生活支援コーディネーターが地域住民と共に地域資源の把握や課題解決等を進める上での調整役に。
- ▶ 協議体で地域課題やニーズを共有し、地域資源の開発や生活支援の充実・強化